

教科(科目)	国語 (言語文化)	単位数	2単位	学年(コース)	1学年 (普通科)
使用教科書	第一学習社『高等学校 言語文化』				
副教材等	第一学習社『完全マスター古典文法』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>卒業までに次の資質・能力を育成する。</p> <p>①「深慮にして実践」「誠実にして勉励」「和親にして敬愛」の教育目標の下、物事に主体的に取り組む姿勢を育成する。</p> <p>②自身の健康を保ちつつ、社会的な自立を目指し、多様性を尊重しながら他者と協働して取り組む力を育成する。</p> <p>③教科横断的な視点を持ち、様々な学習活動をとおして、創造力、行動力、コミュニケーション能力を育成する。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>資質・能力を育成するために、次のような教育活動を行う。</p> <p>①生徒一人ひとりの目標や進路希望が実現できる教育課程を編成し、教育活動を展開する。</p> <p>②3年後の進路を見据えた学力の定着と活用に向け、ICT機器を活用するなどして、主体的・対話的で深い学びと探究的な学習を行う。③自己の在り方生き方を探究するため、「総合的な探究の時間」を主軸に、課題発見・解決、自己表現の育成に取り組む。</p> <p>④様々な状況や環境に対応し自己の力を向上させるため、ボランティア活動やインターンシップ、外部検定試験など、生徒が自ら挑戦できる機会となる情報を積極的に提供する。</p> <p>⑤学校行事や部活動などの生徒の主体的な活動の支援に向け、安全・安心な教育環境に努める。</p>

2 学習目標

<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。</p> <p>(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>
--

3 指導の重点

<ul style="list-style-type: none"> ・漢字、語彙に関する知識を広げるとともに、文語や訓読のきまりを理解する。 ・教材の読解を通して豊かな感受性を養い、言語能力を高める。 ・創作活動を通じて思考力、表現力を養う。 ・伝統的な言語文化への興味、関心を広げる。
--

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。</p>	<p>「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。</p>	<p>言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。</p>

5 評価方法

評 価 方 法	各観点における評価方法は次とおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査、小テストの内容 ・提出物の内容等 などから評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査、小テストの内容 ・提出物の内容等 などから評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の課題の取り組み状況 ・課題プリント、提出物等の取り組み内容や提出状況 ・振り返りシート などから評価します。
	内容のまとめりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。 内容のまとめりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	授業時数	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	古文入門	7 h c「読むこと」 (近代)	『宇治拾遺物語』 「絵仏師良秀」	・古文の文章に慣れると共に言葉の時間経過による変化を理解し調べる。 ・文章の構成単位を理解し、学習の見通しを立て古文の勉強の仕方を理解する。 ・歴史的仮名遣の読み方を理解する。 ・古文の基礎の確認をする。 ・古文ノートの作り方を学ぶ。 ・古文の特徴を確認し、知識を定着させる。 ・動詞の活用を理解する。	7	授業態度・発問評価 (以下省略) 定期テスト 授業の取り組み 提出物
5	中間考査	1 h			1	
6	漢文入門	10 h B「書くこと」	訓読に親しむ (一) (二) (三)	・漢文を訓読するための訓読のきまりを理解させる。 ・漢文ノートの作り方を理解する。	10	定期テスト 授業の取り組み 提出物
	期末考査	1 h			1	
7	故事成語	5 h c「読むこと」	『戦国策』 「蛇足」「狐虎借威」	・漢文訓読の基本事項を定着させる。 ・物の見方や考え方を捉え、内容を的確に解釈する。 ・寓意の解釈を自分で考え、発表する	5	定期テスト 授業の取り組み 提出物
8 9	歌物語	8 h c「読むこと」 (近代)	『伊勢物語』 「東下り」	・和歌の修辞法古文に親しみをもち、作品に表れている見方・考え方を理解するため以下を押さえる。 ・動詞の活用(活用全種類)や、形容詞、形容動詞の活用・助動詞の活用1を定着させる。 ・歌物語について理解させる。	8	定期テスト 授業の取り組み 提出物
	中間考査	1 h			1	
10	日記	10 h C「読むこと」	『土佐日記』 「門出」	・日記文学、作者について理解させる。 そのため以下の項目を押さえる ・助動詞の活用2 ・十二支、旧暦月名を覚える。 ・助動詞の活用を理解する。	10	定期テスト 授業の取り組み 提出物

11	史伝	5 h c「読むこと」	『戦国策』 「完璧」	・史伝の時代背景を知ると共に内容や展開を的確に捉える。 ・漢文訓読の基本を習得させる。 ・漢文の訓読に慣れ、物の見方や考え方を捉え、内容を解釈する。 ・故事成語の内容を理解し、意味を学ぶ。	5	定期テスト 授業の取り組み 提出物
12	定期考査	1 h			1	
	近現代の詩歌	5 h c「読むこと」 (近代)	「鶯のうへ」 「その子二十」	・文語の表記の特徴を理解する。 ・短歌の鑑賞の仕方を理解し、代表歌人の作品を味わう。表現技法の効果及び内容での情景・心情を理解する。 ・定型の作品に慣れ、自分でも創作して発表する。	5	授業態度・発問評価 (以下省略) 定期テスト 授業の取り組み 提出物
1	漢詩	8 h c「読むこと」	「唐詩の世界」 王維 「送元二使安西」 李白「静夜思」 杜甫「春望」	・中国の文学や文化への関心を深めさせる ・漢詩のきまり、形式を理解させる。 ・詩に読まれた心情を読み取る。 ・対句表現を理解させる。 ・漢詩訓読のリズムをつかませる。	8	定期テスト 授業の取り組み 提出物
2	随筆(2)	4 h c「読むこと」	『徒然草』 「ある人、弓射ることを習ふに」	・作品の物の理解や考え方を理解し、随筆の内容・構成を知り、作者の精神を具体的に読み解く。 ・これまで習った文法を総確認する	4	定期テスト 授業の取り組み 提出物
	学年末考査	1 h			1	
2 3	思想	3 h c「読むこと」	「論語」	・作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する方法を学ぶ。 ・日本にも大きな影響を及ぼした「論語」について理解する。	3	課題テスト 授業の取り組み 提出物

課題テスト・考査は「読むこと」の領域

計70時間(50分授業)

※ 領域ごとの授業時数合計

領域ごとの 授業時数合計	A「話すこと・聞くこと」 0時間	B「書くこと」 10時間	C「読むこと」 60時間	うち 近代20時間 古典40時間
-----------------	---------------------	-----------------	-----------------	---------------------

7 課題・提出物等

- ・定期的にノートを提出する。
- ・単元毎に振り返りシートを提出する。
- ・長期休業後は課題テストを行う。

8 担当者からの一言

現代に通じている古典の思いを感じながら、楽しんで学習し、自分を豊かにしていってほしいと思います。

